友を想い 生かされている」ことに感謝 元気に

村上 久幸 (旧姓 前田田



い・・・)受験で東京へ鈍行列車で一緒に(通路に新聞紙をしいて・・・)などな

彼との学生生活がなつかしい

今度の誕生日で「後期高齢者」を迎えられそうだが・・・

活を繰り返し、今日をむかえました。 し・・・で、眼底出血網膜剥離などで「左目」は視力が戻らず・・・数回の入院生 員生活から卒業、早速タバコを止め、健康への生活習慣に挑戦したが、時すでに遅 を一息ついて見つめなおす機会(天の声)を得られ、六十一歳で、三十九年の会社 思い起こせば、六十歳で「血管年齢八十歳」と診断され「がむしゃらな仕事ぶり」

のびたら・・・「祝い金」を奮発しろよ・・・の心境ですハハハハハ。七十歳すぎ ても会っている小、 「生かされている」ことに感謝しながら「男の平均寿命八十歳」まで元気で生き 中 高の同級生が数人いるが、隆重(中村)さんもその中の

を経営に反映させている。「大した男」だと感服している 彼は親の保育園を継承してから着々と事業を拡大し、さらに前向きな新たな目標

彼の生き様を・・・客観的にみると・・

- 〇「アンテナが多く高い.
- 〇「一方聞いて沙汰するな」
- 〇「子子孫孫までの繁栄を見据えた経営
- 0 「利害関係のない人間関係を大切に.
- 0 「平常心=自律神経のバランスと謙虚さ」が良い決断環境を育て、 決断を生む
- 〇「短所」も見方を変えると「長所.

などなどの「人生信条」が、生涯現役の彼を支えていると思う。 と子子孫孫までの繁栄」にエールを送りたい!! 益々の 「堅実経営

こ健勝を祈る!!

校甲子園へで・・・一緒に(私は、ついに生い茂った甲子園の外壁しか覚えていな 桜島山頂で一緒に食べた握り飯うまかった、柔道部での汗まみれの練習、 玉龍高

隆重さん

2011年(平成23年)6月20日 中村

なかむら・たかしげ 1939年、南大隅町出身。 法政大学卒業後、東京の運送会社に就職。66年 に帰郷し、父か営んでいた保育園の運営に携わ る。72年の白鳩会設立に伴い、理事に就任。75 年から現職。根占生産組合では設立当初から理 事。中村豚子代表理事は長女。

農事組合法人・根占生産組合は、障害者の自立・就労を原点に「花の木農場」で、茶

り、生産・加工過程で障害者 る事業所・施設が四つ、それ プ四つが鹿児島市などにあ の総称で、障害者の就労の場 らを販売するアンテナショッ 一豆腐やジェラートなど製造す 設する。生産した農畜産物で になっている。南大隅町の敷 135人が働く」 地に農地やハウス、畜舎を併 連営する自家農場や加工施設 「根占生産組合と白鳩会が 「花の木農場」とは、

く、『国に面倒を見てもらう のが当然』という福祉の在り 行が本来の価値ある生き方 方に疑問を抱いた。 "自立自 ぶきっかけは何だったのか。 福祉と農業ビジネスを結 福祉事業を始めて間もな 農畜産物の加

生懸命作業する姿に障害者も じるようになった。職員が 2次、3次加工の必要性を感 分たちで値段を付けて売れる 年ほどかかったが、農地を少 も払えず、軌道に乗るまで10 茶の生産。当初は十分な賃金 存が効いて輸送コストが低い しずつ広げていく過程で、自 生産し、主に豆腐や豆乳に加 工している。水耕栽培した野

と、みたいな作業では、障害

者に現金で高い賃金を払えな 展産物を作って売る"まま" った。しかし、小さな農園で 就労事業に取り組むことにな

> 2010年度売上高1億 社 鳩会」は72一設立、73年 7398万円、従業員17 立。出資金7110万円、 人、うち10人は障害者。 法人「根占生産組合」設要0。0994(2)37 概 78。社会福祉法人「白 会 おすみの団」も開園 南大隅町根占川北952

産業化の先駆けといえる。 インは、法整備もされた6次 結ぶことにした」 し、白鳩会と労務委託契約を 度が高い農事組合法人を設立 経営が出てきた。経営の自由 べない。そこに企業的な農業 いし、彼らも労働の成果を喜 販売まで一貫した生産ラ 6割を『大隅茶』として販売 ら、枝肉解体、製茶まで多く し、残りは荒茶で出荷する。大 豆は当初の3年間は台風被害 の作業をこなす」 農薬の散布、機械での収穫か 付いていき、農場での肥料や には障害者支援施設「お 「茶は年間120ヶ生産し、 生産・加工状況は。

る。同組合理事で、労働力の供給源である社会福祉法人「白鳩会」の中村隆重理事長(71) リティー(生産履歴)が確保された「安心・安全」な食を提供、事業規模を拡大してい や大豆の生産、養豚などを手掛ける。福祉と結び、生産から製造、販売までトレーサビ (政経部・入角里絵子) 環型農業も実践している」 る。生産・加工の過程をすべて は市場に出荷したり、精肉や 売り上げ増に期待がかかる」 **上食品コンクールで入賞し、** 味を追求したジェラート。 農 み。牛豚のふんは堆肥化し、循 ハム、ギョーザに加工してい ている。約3千頭飼育する豚 **企握できるのがわれわれの強** -でも扱われ販売網が広がっ 今後の展開はどうか。 一注目は、本場イタリアの

菜は、直販以外に地元スーパ

障害者と「6次産業化」

場。ブランドを確立し、福祉営業能力を高め、"花の木農 立していないが、『福祉施設 グループホームを建設中だ。 利用者の就労確保のため、せ っけんの開発にも取り組む」 ーまだ計画通りの流通は確 「鹿児島県庁近くに新たな

「まず目を付けたのは、保にも遭ったが、今は年間12ヶ されつつある。通販も含めて 追求する姿勢は消費者に理解 の商品。の枠を超え、本物を 販売している。昨年、県新加 約30種開発し、時季に応じて 場の果物や豆乳などを素材に

ビジネス戦略

南の雄を目指したい と農商工連携のモデルとなる